

| | | |
|---|-----|--------------|
| ADF(繊維量)含量を高めた飼料給与による交雑去勢牛の肉質向上 | | |
| <p>[要約]</p> <p>交雑去勢牛を生後 10 カ月齢から飽食肥育する場合、混合飼料中の繊維含量高め、TDN 水準を肥育前期 74 %、中期 76 %、後期 79 ~ 81 %に設定し、血中ビタミン A を生後 12 カ月齢から制御すると、飼料摂取量や増体の低下を起こすことなく良質肉が得られる。</p> | | |
| 畜産試験場(酪農・環境部) | 連絡先 | 0974-76-1216 |

[背景・ねらい]

交雑去勢牛は系統や個体によって発育の差が大きく、肥育素牛の肥育特性にあった肥育方式を適用することが望ましい。そこで、産肉性を十分に引き出すため飽食開始月齢、混合飼料中の繊維含量(酸性デタージェント: ADF)、TDN 水準を明確にする。

[成果の内容・特徴]

- 1 生後 10 カ月齢から飽食を開始した場合、混合飼料中の原料構成比で一般フスマを前期(6 ~ 12 カ月齢)38 %、中期(13 ~ 17 カ月齢)30 %、後期(18 ~ 24 カ月齢)25 ~ 20 %。稲ワラを前期 20 %、中期 16 %、後期 7 ~ 5 %混合すると、適正な ADF 量が得られ(図 1)、混合飼料中の TDN 水準を肥育前期 74 %、中期 76 %、後期 79 ~ 81 %に高めても摂取量(図 2)が落ちず、良質肉が得られる(表 1)。
- 1) 血中ビタミン A 制御を生後 12 カ月齢から開始(図 3)。

[普及対象]

県下の交雑種肥育農家及び畜産技術者

[成果の活用面・留意点]

- 1 脂肪前駆細胞が脂肪細胞へ分化する時期の生後 12 ~ 15 カ月齢に養分摂取量を不足させないようにするため、飽食開始時期を生後 10 カ月齢とする。
- 2 血中ビタミン A 濃度が最低値となる生後 18 ~ 20 カ月齢は牛の観察を徹底する。

[関連データ]

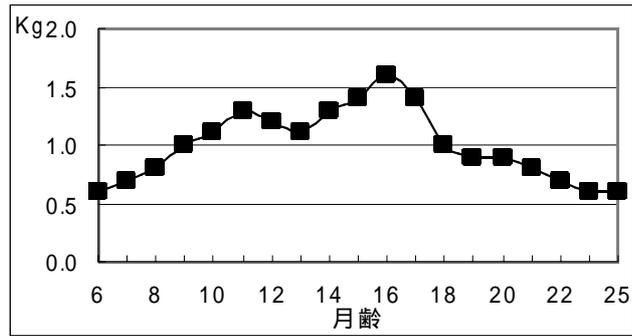


図1 ADF摂取量

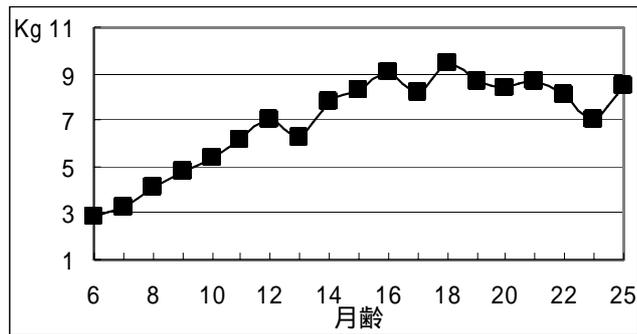


図2 TDN摂取量

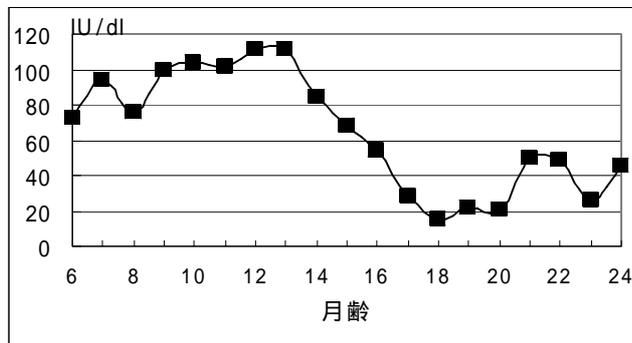


図3 血中ビタミンA濃度の推移

表1 枝肉成績

| と前 体重 (Kg) | 枝肉 重量 (Kg) | 枝肉 歩留 (%) | ロース 芯面積 (cm ³) | ばらの 厚さ (cm) | 皮下脂肪 の厚さ (cm) | 等級割合 | BMS |
|------------------|------------------|-----------------|----------------------------------|-------------------|---------------------|-------------|------------|
| 766.5 | 452.1 | 71.7 | 57.3 | 7.1 | 2.5 | A5:1頭、B5:3頭 | 7, 8, 9, 7 |